

富山市の文化財

第 6 号



①観音像



②虚空像菩薩(円空)



③白山不思儀十万金剛童子(円空)



④白山金剛童子



⑤白山妙理大権現(円空)

えん くう ぶつ 円 空 仏

円空は江戸時代前期の僧で、神仏像を 12 万体制作したと伝わっており、現在のところ全国で約 5,400 体が確認されています。細入地域には 24 体が残っており、そのうちの 5 体が上記のものになります。①・②は蓮華座に座しており、①は頭頂が尖り、②は丸くなります。背面には梵字で「聖観音」「不動明王」「毘沙門天」などが墨書されています。

③～⑤は、平ノミで形を整え、角ノミで目・鼻・口・衣文が線刻してあります。おのの背面には墨で、③には「白山不思儀十万金剛童子」、④には「白山金剛童子」、⑤には「白山妙理大権現」と文字が書かれます。また、「十一面観音」「阿弥陀如来」「聖観音」などを表す梵字も墨書されています。これらは、昭和 47 年に富山市加賀沢の白山社で発見され、昭和 60 年 3 月 1 日に細入村指定文化財(現、富山市指定文化財)に指定されました。現在は富山市猪谷関所館(富山市猪谷 978-4)で展示しています。

馬場家(富山市東岩瀬町)建物等が市に寄附

平成26年7月8日に、馬場家から市に建物(主屋、前蔵、一番蔵、二番蔵、米蔵、裏門、塀)や物品、古文書が寄附されました。

馬場家は旧北前船廻船問屋で、建物は明治10年頃に建築されました。富山の伝統的な町屋建築で、主屋をはじめ土蔵が4棟あるほか、裏門や塀も残っていて、その配置はほぼ当時のままで、保存状態も良好です。

主屋正面の構えは、大戸と出格子で構成され、富山の伝統的な町屋建築の意匠である板庇が付きます。また、主屋の間口は8間と岩瀬地区では最大の規模を誇り、内部の間取りは前庭付き三列四段型で、畳廊下が設けられ、接客と居住部分を分けています。通りニワも主屋背面までまっすぐに延び、その左右に主屋や土蔵の間口が続いています。背面の米蔵を含む2棟の土蔵の規模は極めて大きいものです。



馬場家外観



感謝状贈呈式

平成26年度に行った主な事業

1 文化財総合調査事業

この事業は市内のそれぞれの地域に残された文化財の現状を把握し、総合的な視点から調査・整理を行い、広く一般に公開することを目的とする事業です。

26年度は、来年度に予定している報告書の刊行準備や補足調査を行い、調査成果等について有識者から意見をもらうための懇話会を2回開催しました。

2 文化財標識等の修繕・新設

国重要文化財・市指定文化財と埋蔵文化財などの案内板等の修繕を行いました。

(1)修繕した案内板等 浮田家住宅、木造僧形神像・木造男神像、木造楊柳観音像、砂付の梵鐘、猪谷の百万石行列、長沢西城跡、長沢東城跡

3 旧水橋郷土史料館の収蔵資料展示など

水橋郷土資料展示コーナーで、企画展(年2回)などを行いました。

(1)企画展

ア.「記憶の糸～記録にみる水橋の今昔～」

平成26年6月10日～12月7日

絵図や水橋町役場看板など昔の水橋を伝える資料41点を展示しました。

イ.「水橋浦と北前船」



平成 26 年 12 月 9 日～平成 27 年 8 月頃

北前船の模型や船旗など北前船に関する資料 52 点を展示しています。

(2) 収蔵資料の貸出など

- ア. 梅ヶ谷、太刀山、玉椿、緑鳶(郷土出身力士) 写真 1 点 平成 26 年 7 月 11 日
- イ. 大岩鉄道株式会社設立趣意書等 1 点 平成 26 年 9 月 26 日～11 月 3 日
富山県公文書館「企画展 とやまの鉄道物語」
- ウ. 富山の売薬用具 960 点 平成 26 年 10 月 11 日～平成 27 年 6 月 21 日
富山市民俗民芸村・売薬資料館「特別展 富山の売薬用具全分類項目一挙公開」
- エ. 北前船模型 1 点 平成 26 年 11 月 22 日～12 月 14 日
滑川市立博物館「滑川の絵馬 その 3 -旧町部・浜加積・早月加積地区-」

(3) 旧水橋郷土史料館見学など

- 26. 7. 8 見学会(水橋中学校・三成中学校)
- 26. 10. 17 資料調査：北前船模型(滑川市立博物館)

4 国指定重要文化財建造物管理

(1) 浮田家住宅

ア. 入場者数 1,668 人(平成 27 年 2 月末現在)

①視察・団体 4 件 ②取材・撮影など 10 件

イ. 行事・イベントなど

- 26. 6. 1 急須塚祭(煎茶道 松風流)
- 26. 9. 9 修繕工事体験(太田小学校)
- 26. 9. 27 清掃奉仕(教職員 OB 会)
- 26. 10. 4 清掃奉仕(富山神通ライオンズクラブ・太田長寿会)
- 26. 11. 3 文化の日のため無料公開
おどりとお茶の会(弥藤会)
- 26. 11. 8 市民向けバスツアー

ウ. 維持管理

- ・樹木の剪定、施肥、雪囲いや除草などの庭園管理業務
- ・主屋の石置屋根清掃、雪囲い ・消防用設備修繕

エ. 保存修理事業

平成 25・26 年度の 2 年計画で、主屋や表門等の屋根葺き替え、木部修理等を行いました。

26 年度は、主屋茅葺き屋根、石置き屋根、柿葺き屋根の葺き替えと部分修理等を実施し、26 年 9 月に完了しました。

(2) 旧森家住宅

ア. 入場者数 31,395 人(平成 27 年 2 月末現在)

①視察・団体 216 件 ②取材など 49 件

イ. 行事・イベントなど

- 26. 4. 28 ヴィオラ演奏



主屋茅葺屋根葺き替え風景



修理工事体験



保存修理工事が完了した主屋

- 26.5.26～5.30 14歳の挑戦 和合中学校(2名)
- 26.7.26 第67回岩瀬みなとまつりのため無料公開
- 26.9.29～10.3 14歳の挑戦 岩瀬中学校(2名)
- 26.10.3 駐車場除草(県職員0B)
- 26.11.2 第31回岩瀬文化祭のため無料公開
- 26.11.3 文化の日のため無料公開

ウ. 資料貸出

- ・船絵馬 3点 平成26年11月22日～12月14日
滑川市立博物館「滑川の絵馬 その3－旧町部・浜加積・早月加積地区－」



撮影風景

5 文化財保護支援事業

文化財の保存と継承を目的として、次の事業に支援を行いました。

- (1)越中の稚児舞(熊野神社)保存事業<国指定>
- (2)八尾曳山保存修理事業<県指定>
- (3)西岩瀬諏訪社の大けやき環境整備事業<県指定>
- (4)さんさい踊り開催事業<市指定>
- (5)中老田のモチノキ保存事業<市指定>



西岩瀬諏訪社の大けやき

6 浜黒崎の松並木の環境整備

県指定文化財「浜黒崎の松並木」の周辺の除草、薬剤散布、枯枝除去、腐朽診断調査を行いました。

7 カモシカの保護

国特別天然記念物であるカモシカの保護を行っています。平成26年3月～平成27年2月の滅失件数・出動件数は以下のとおりです。

	26年3月	25年度計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	計
滅失件数	2	24	6	4	3	1	2	1	1	0	0	2	4	24
出動件数	0	38	16	21	12	4	4	2	4	0	0	2	4	69

8 指定文化財の整備業務

市指定天然記念物や市指定史跡などの草刈・雑木刈等の整備業務などを行いました。

- (1)城生城跡 平成26年5～8月
- (2)井田主馬ヶ城跡 平成26年9月29日
- (3)大道城跡 平成26年7月12日
- (4)尾畑城跡 平成26年7月2日
- (5)小井波の水芭蕉 平成26年9月24日

9 富山市博物館施設等連携事業

市民向けバスツアーを11月8日に開催しました。ツアーのコースは、佐藤記念美術館→民俗民芸村・売薬資料館→猪谷関所館→浮田家住宅で、参加者は23名でした。



また、「富山市の博物館等ガイドマップ」を増刷しました。ガイドマップに掲載された施設や生涯学習課等に設置してあります。なお、富山市のホームページ(「富山市観光ガイド」-「パンフレットギャラリー」)からダウンロードできます。

10 孫とおでかけ支援事業PR事業

平成24年7月から実施している「孫とおでかけ支援事業」のPRポスターを作成しました。

この事業は祖父母と孫と一緒に市内の博物館施設など15施設を訪れた場合、観覧料などが無料になる取り組みです。

ポスターデザインは、富山市デザイン選定委員会(事務局：市薬業物産課)において決定しました。



11 北陸新幹線開業記念博物館施設等PR事業

平成27年3月14日の北陸新幹線開業にあわせ、市内の博物館と美術館を巡るバスツアー「とやま歴史・美術散歩(2コース)」を4回開催しました。

「富山城・ますのすし・売薬コース」(3/20・3/21、講師：米原寛前富山県立山博物館長)では、郷土博物館→浮田家住宅→ますのすしミュージアム(昼食)→民俗民芸村・売薬資料館→ギャラリー・ミレー→池田屋安兵衛商店を巡りました。

「富山城・北前船・売薬コース」(3/27・3/28、講師：上野幸夫職藝学院教授)は、郷土博物館→民俗民芸村・売薬資料館→とやま自遊館(昼食)→旧森家住宅・東岩瀬まちなみ→ギャラリー・ミレー→池田屋安兵衛商店を回るコースでした。

また、市内の博物館や文化財13施設を対象として「富山市博物館・文化財スタンプラリー」を実施しました。



12 富山市文化財調査審議会の開催

平成27年2月26日に、平成26年度の富山市文化財調査審議会を開催しました。

①平成26年度文化財関係事業の実績、②平成27年度文化財関係事業の概要、③市指定文化財の要望について報告し、協議を行いました。

13 第61回 文化財防火デー

1月26日の文化財防火デーにあわせて、指定文化財を保有する施設において消防訓練や消防設備点検、防災指導等を行う査察が富山市消防局により実施されました。

消防訓練には、町内会や消防団員など地域住民の方々も参加しました。

(1) 消防訓練

1月25日	富山市陶芸館(富山市安養坊)	54名
	海禅寺(富山市四方西岩瀬)	72名
	西禅寺(富山市猪谷)	26名



宝寿院

	宝寿院(富山市文珠寺)	41名
	聞名寺(富山市八尾町今町)	40名
1月26日	本覚寺(富山市婦中町富崎)	30名

(2) 査察など

- ア. 富山地域 郷土博物館、来迎寺など 25カ所 (平成 27 年 1 月 13～23 日)
- イ. 大沢野・細入地域 上行寺、円龍寺など 8カ所 (平成 27 年 1 月 19～30 日)
- ウ. 大山地域 大川寺、東薬寺など 4カ所 (平成 27 年 1 月 16～21 日)
- エ. 八尾地域 本法寺、八尾曳山展示館など 6カ所 (平成 27 年 1 月 19～26 日)
- オ. 婦中地域 善導寺、杉原神社など 6カ所 (平成 27 年 1 月 26～27 日)

富山市の文化財案内 市指定・彫刻編(その1)

1 銅造聖観世音菩薩立像

〔所在地〕 富山市婦中町板倉(玉泉寺)

〔指定日〕 昭和 58 年 12 月 22 日

この像は、玉泉寺に安置されている金銅仏で高さ 21.8cm です。宝冠の正面には阿弥陀坐像が表されていて、頭部はやや面長で、体つきも肉付きがあり、全身に瓔珞をつけています。右手を内側に曲げ、左の手のひらは外側に開き親指と人差し指を伸ばしています。7世紀後半に朝鮮半島で制作されたと考えられ、渡来仏のひとつです。

玉泉寺は、もと能登総持寺の塔頭のひとつで、慶長元年(1596)に創建され、寺名は加賀藩 2 代藩主前田利長夫人永姫の法号玉泉院にちなんでいます。明治 13 年(1880)に現在地に移転したと伝わります。

この像も、能登にあったものが寺とともに移ったといわれています。



2 木造僧形神像・木造男神像

〔所在地〕 富山市婦中町鵜坂(鵜坂神社)

〔指定日〕 昭和 61 年 7 月 21 日

この 2 体の像は、鵜坂神社に安置されている木造のご神体です。

左の像は「木造僧形神像」で、檜の一本造で高さ 29.5cm となります。合掌した尼僧の姿らしく、平安時代末期の作と考えられています。右の像は、「木造男神像」で、檜でつくられており、高さ 50.5cm になります。烏帽子をかぶり笏を持った束帯で、どっしりと座った姿をしています。鎌倉時代初期の作品といわれています。

鵜坂神社は、崇神天皇の時に創建されたと伝わり、平安時代に編纂された『延喜式』に記載のある婦負郡の式内社のひとつです。



3 立蔵社神像

〔所在地〕 富山市本宮(立蔵神社)

〔指定日〕 昭和57年5月4日

これらの像は、立蔵社本殿に安置されている8体あるうちの2体にあたります。

左の像は、高さ92cmの立山杉の一本造です。冠の巾子の幅が広く、盤領という上衣の円い襟やなで肩の菱装束で、両手は膝の上に置き、胡座しています。鎌倉時代初期の作と考えられています。

右の像は、高さ84cmで立山杉の一木造です。左足は立膝で、強装束で肩と膝の線が力強く、いかめしく感じられます。鎌倉時代の作といわれています。

立蔵神社は、立山開山の慈興上人の師である薬勢上人が開いたとされ、立蔵ヶ原(説法ヶ原)、宮林(上本宮)などを経て、現在地に建立されたと伝わります。



4 木造千手千眼観世音菩薩立像

〔所在地〕 富山市南新町(清源寺)

〔指定日〕 昭和51年5月25日

この像は、清源寺(曹洞宗)に安置されています。像高は54cm、幅29cmの檜材の寄木造で、寺伝では恵心僧都の作とされています。玉眼に水晶が使われるなど、鎌倉時代中期の制作と推定されていますが、天衣や合掌の手先のほか数カ所に江戸時代の補修がみられます。また、光背裏面には、大仏師長兵衛の墨書銘がみられ、江戸時代に付け替えられたことがわかります。

この寺の伝記によれば、寛政の頃(1790年頃)富山藩士山田正武が、諸国霊場参拝を思い立ち、堺の浦に泊まったところ、夢の中で仏のお告げがあり、この像をさがし求め、帰郷した後、これを祀ったと伝わります。

この像は、長らく山田家の菩提寺である全慶寺境内の御堂に祀られていましたが、明治3年(1870)の合寺令により清源寺に移されました。

清源寺は、応安4年(1371)に富山市石屋に創建されたと伝わり、富山藩初代藩主前田利次の許しを得て、現在地に移転されたそうです。



5 如意輪観世音菩薩坐像

〔所在地〕 富山市梅沢町(円隆寺)

〔指定日〕 昭和 54 年 3 月 13 日

この像は、鉄造で、像高 13 cm、幅 9 cm になります。また、胴体と腕の部分が別々に鑄造され、鎌倉時代の鑄造技法の特徴をあらわしています。腕 6 本、足 2 本で構成されており、右足を立膝にした坐像で、頬杖をついた思惟の姿をしています。

円隆寺の伝記によると、寛文年間(1661～1672)に寺の開基である快意法印が立山に登った際、夢の中のお告げにより、浄土川の周辺で半身が土に埋った金銅像を発見し、持ち帰って御堂を建立して、祀ったと伝わります。

円隆寺(天台宗)は、寛文 6 年(1666)に、富山藩初代藩主前田利次の祈祷所として創建されたと伝わります。また、立山信仰と深い関係にあり、毎年 3 月 15 日に芦峯寺閻魔堂の行事を行っています。



6 摩耶夫人像一式

〔所在地〕 富山市小原屋

〔指定日〕 昭和 63 年 5 月 20 日

この像は、江戸時代中期の作とされる彩色仏像です。摩耶夫人はお釈迦様の生母で、45 歳の時にお釈迦様を生み、わずか 7 日で亡くなりました。この像はお釈迦様降誕の時の姿で、頭に宝冠を頂き、右手に蓮華の花、左手を岩座上の釈尊に向けて立っており、身に着けた唐衣装には華麗な極彩色がほどこされています。

江戸時代中期に、江戸の浅草観音寺にいた越中出身の遊仙という和尚が、3 体製作した摩耶夫人像のうちの 1 体を富山に持ち帰り信仰を広めました。その後、明治 3 年(1870)の合寺令が出された際に、小原屋の笹岡伝四郎氏が譲り受け、集落で安置しました。



〈主な参考文献〉 大山町役場 1964『大山町史』、大山町教育委員会 1990『大山の文化財めぐり』、富山県教育委員会 1994『富山県の近代和風建築』、富山市教育委員会 1988『富山市の文化財・史跡案内』、久野健 1984「富山・玉泉寺の金銅観音像」『史跡と美術 第 542 号』、婦中町 1996『婦中町史 通史編』、婦中町教育委員会 1998『文化財を訪ねて』、細入村 2005『細入村史 通史編(続編)』

富山市の文化財 第 6 号

発行日 平成 27 年 3 月 31 日

編集・発行 富山市教育委員会 生涯学習課

〒930-8510 富山市新桜町 7-38

TEL (076) 443-2138、Fax (076) 443-2194

印刷 株式会社サカイ印刷